

# エコツォー

エコムつうしん 89(リモート取材)号

89

良い循環をつくる。

## コロナ禍で、どうしてる？

不要不急、3密、ステイホーム… コロナ禍は、いろいろなキーワードを生み出し、人々の暮らしや働き方、コミュニケーションあり方までに大きなインパクトをもたらした。ワクチンにより、きっと徐々に感染は収まっていくのだろうけど、ポストコロナ時代はどんなふうに変わっていくのかな？

● ピーブルズコミュニティ ● たけはな子ども食堂 ● 岐阜うちわ



こちらは、子ども食堂利用者による医療従事者向けの応援メッセージの寄せ書き。岐阜市民病院に貼り出され、医師や看護師たちはこれを見ることでがんばれたというよ。



### フードパントリー

みんなで工夫して、乗り切ろうとした

食品やお菓子を無料配布するフードパントリーも積極的に実施したそうだよ。ボランティアとして長年関わっていている羽島高校の生徒さんたちの発案があって、子どもたちにメッセージを書いて入れたんだ。みんなが工夫して、つながりあって、元気をつくりだそうとしていたよ。

### 遠足子ども食堂

楽しい方がゼツタイいい

今年の春は、さらにもう一工夫。「遠足子ども食堂」を実施した。畑を借りることができ、サツマイモの苗の植え付けながら、屋外でお弁当を食べたんだ。夏には、笠松のトンボ天国でトンボ博士といっしょに昆虫採集。「制約があるから、いろいろな工夫ができるようになった」と宮崎さんは笑った。秋にはサツマイモの収穫も予定していて、楽しみがいっぱい。子ども食堂から目が離せない状況になっているね！



外で食べるお弁当はおいしいね

コロナ時代は、困っている人に手を差し伸べる… 共助の社会を作り出している一面もあるんだね。



サツマイモの苗付け

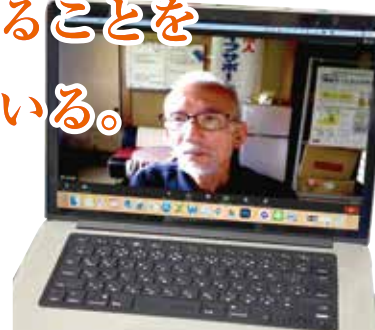
### information

たけはな子ども食堂  
羽島市竹鼻町 2635  
第1・第3木曜日  
17:00 ~ 20:00  
料金 子ども 100円  
おとな 200円  
お問合せ 058-322-8725

## たけはな子ども食堂 羽島市

— 子ども食堂ぎふネットワーク —

工夫することを学んでいる。



宮崎孝司さん

2年ほど前に取材させていただいた「たけはな子ども食堂」。高校生が手伝いに来ていて、写真撮影をお願いすると、照れくさそうに応じてくれたのが印象的だった。総計60人ほどの親子の利用があって、とてもにぎやかだったことが、今となつては懐かしく感じるよ。それからまもなくして、コロナ時代に突入してしまったんだ。

その時、取材対応してくれた事務局長の宮崎孝司さんに、再びリモート取材をお願いすると、快く引き受けてくれたよ。

### キッチンカーによるカレー配食

こんな状況だからこそ

感染症対策のため、全国一斉の臨時休校となったのが、昨年の3月だったね。その影響で、子ども食堂も約2か月間休止となっていた。「子育て世代がストレスを抱えていることが報告されるようになり、こんな時だからこそ工夫して何かできないかと考えていた。」と宮崎さんはいうよ。

外食が敬遠され、テイクアウトなどの動きが進んでいた頃でもあり、考えたのが、キッチンカーによる配食だった。宮崎さんの友人にカレー屋さんをやっているネパール人がいて、彼の全面的な協力を得て、ゴールデンウィーク明けから3密を避けながらカレーと焼きたてのナンをお寺や施設の駐車場で提供した。めずらしいし、おいしいし… 子どもたちにとっても喜ばれたんだって！



みんなが喜んでくれた



3密＝「密閉」「密集」「密接」。感染症対策でのキーワードとして頻用された。

ちなみに「三密」という言葉は、密教で仏の身・口・意の働き。人間の意識が及ばないので、密というんだって。

コロナ禍で、どうしてる？



※表紙の作品は、TASCぎふ((公財)岐阜県教育文化財団 岐阜県障がい者芸術文化支援センター)がアーカイブした県内アーティストのもので、TASCぎふは、障がいのある人がアートに触れる機会をつくる、その魅力をつたえる、そして様々な作品と人との出会いをつなげる活動をしています。

「イルカのすべり台」/よこいゆうひ



## ピープルズコミュニティ 輪之内町

### 活動の輪がひろがっています。

揖斐川と長良川の二大河川に挟まれた輪之内町にある「NPO法人ピープルズコミュニティ」が、一般家庭から排出させる生ごみのたい肥化をスタートさせたのは、2000年のこと。同法人による地球環境を思いやる活動は、町民の共感を呼び、輪之内町は環境にやさしいまちとして、町内外から評価・定着されているように感じるよ。

エコツアーで同法人を取材したのは、4年ほど前。代表理事の安田裕美子さんに、コロナ禍にある最近の様子をお伺いしたよ。



安田裕美子さん

### エコドーム利用状況

#### ステイホームで、むしろ利用が増えた

ピープルズコミュニティが管理・運営する「エコドーム」は、町民の資源持ち込み施設。コロナ禍となり、資源の持ち込みが増える傾向にあるという。「在宅の機会が増え、生活スタイルを見直す気分が高まっているんじゃないかな。特に粗大ごみが増えてます。」と安田さん。また、小中学校の資源回収が休止になっていることから、新聞紙などの、可燃ごみの持ち込みが増えたそうだよ。

#### 子ども連れで来てくれる

最近、よく見られるのが子ども連れでの利用だという。以前はあまり見かけなかった若いお父さんが子どもといっしょに来て、ごみの分別を子どもに学ばせている。「家事は女の役割という時代ではないんだね。」と安田さん。世の中の環境への意識の高まりに、なんだかうれしそうだったよ。



親子で利用する人が増えた

### みんなで川清掃

#### プラゴミが川から海へと流れ出ていた

知人からの情報で、川の流域で捨てられたごみが遠く伊勢湾の島々に流れ着いていることを知らされたメンバー。



答志島でもゴミを拾ったよ

バー。海流の加減から、三重県の答志島に多くのごみが流れ着いていた。心を痛め、視察に向き衝撃と困惑。海苔やカキの養殖への打撃は図り知れないものだった。「心ないポイ捨てが、島の人たちに多大なる迷惑をかけていることを目の当たりにして、動き出さずにはいられなかった。」と安田さんは熱く語った。

2021年5月30日(今後定期実施の予定)、町内に工場を持つエフビコの「エフビコ環境基金」を活用し、その他、多くの皆さんの協力を得ながら、輪之内町の揖斐川左岸の川清掃「海なし県から海洋ごみをなくそう」を行ったんだよ。



### 子ども食堂

#### 作った野菜を利用しているよ

「輪之内町から生まれたごみは、輪之内町の土にかえそう」が、ピープルズコミュニティのスローガン。生ごみからつくるたい肥で栽培する「いきいき貸し農園」を運営も、同法人がずっと取り組んできたことだよ。

4年ほど前から、農園の野菜を活用する子ども食堂「この指とまれ」をスタートさせた。エコドームに食材を届けて



「この指とまれ」は、毎月第3土曜日 17:00～「大藪コミュニティ」で行われているよ

くれる町民もいるとのこと、「皆さんの協力は本当にありがたい。」と、感謝の言葉で締めくくったよ。

信念をもって長年活動を続けていることで、町民の行動を変えている。すばらしいことだね。



### information

輪之内エコドーム  
安八郡輪之内町中郷新田 1515-1、  
1515-2、1516  
お問合せ 0584-69-5374

## 岐阜うちわ 岐阜市

### ここで変わらず続けている。

岐阜県の伝統工芸品の一つである「岐阜うちわ」。長良川鵜飼の観光用としてたくさん作られるようになった。そういえば、観光シーンはどうだろうと思い、川原町でうちわを作っている住井一成さんに電話してみたよ。



住井一成さん

昨年の川原町界隈は、ゴーストタウンのようにひっそりしていた。うちも1ヵ月ほど休んだかな。

今年は40日遅れで鵜飼がスタートして(8月5日現在)、人が徐々に戻りつつあるね。私のところは、うちわを作るだけの小さな店なので、やってることはいつもとそんなには変わらない。これから暑くなるからね。感染対策と水分補給をしっかりと、皆さんに涼を感じていただける仕事をしたいね。



水うちわは、竹の骨組みに透けるような薄い和紙を貼り、天然のニスで塗って乾燥させる。水にぬれたような透明感があり、涼し気な見た目から、そう呼ばれる。



### information

住井富次郎商店/住井一成  
岐阜県岐阜市湊町 46  
電話 058-264-4318



令和3年8月発行

発行：エコカワムラ株式会社  
岐阜県安八郡輪之内町里85番地の3

TEL 0584-68-2033 (代)

制作：いいデザイン ishiidesign@outlook.com



バックナンバー

## コロナ禍で、どうしてる?

不要不急=どうしても必要というわけでもなく、急いでする必要もないこと。行政等から国民に対して行動の自粛を要請する際に使われた。自分がやっていることは、どうなの?と考えさせられたね。